

「筑後川遺産」情報発信「櫛の道」特別展（実績報告）

ハゼまつり期間中、「筑後川遺産」の情報発信について、多大なるご協力をありがとうございました。
ボンネットバスを活用した特別展が、下記のとおり、完了しましたので取り急ぎ、報告します。（暫定版）

1. 実績(数字) → 2. 展示(内容) → 3. 報道(宣伝) → 4. 所感

1. 実績

実績(数字)は以下のとおり。

事前準備

広報PRのために、事前PR @道の駅くるめを2回実施。

① 報道向け事前体験会 10/24

初回事業なので、広報協力を求めるための事前体験会を実施

→ 新聞3社、関係部署 あわせ **28名**試乗



News Release 筑後川産のあかり打す会・久留米市 2025年10月14日

久留米の秋の風物詩 柳坂「ハゼまつり」期間中 に 筑後川遺産「櫛の道」特別展初開催！

事前体験会のお知らせ

筑後川に育まれた歴史遺産のストーリーを結びつけ、次世代に遺していくための「筑後川遺産」に、今年「櫛の道」が登場！ 全国でも珍しい200年以上の歴史を誇る柳坂の歴史を、この特別展を通じて、多くの人に知ってもらいたい。特別展期間中には、九州でたった3箇所しか行っていない筑後ボンネットバスが、道の駅くるめと会場を結ぶ「特別運行」を実施します(11/30)。今回、特別展の内容紹介と、ボンネットバス試乗を合わせて、事前体験会を行いますので、ご参加ください。

【事前体験会詳細】
 日 時：2025年10月24日(金) 14時00分～
 会 場：道の駅くるめ 研修室・大型専用駐車場 (久留米市平塚塚中町第221-33)
 出演者：筑後川産のあかり打す会 (北山理恵子委員長、柳坂香織のりこ代表理事、エンターテインメント部長、久留米市観光課 等)
 主 催：筑後川産のあかり打す会 共催：久留米市
 内 容：第1部 特別展の概要紹介(道の駅くるめ研修室) (10分程度)
 ① 筑後川遺産「櫛の道」概要
 ② 特別展の紹介と会場
 ・展示内容の紹介
 ・地元特産品が飾られる飾壇
 第2部 ボンネットバス試乗会(道の駅くるめ駐車場) (30-50分)
 ① 高松山に上る「アサギライド」(特等車)
 ② 運転コースの紹介

高松山アサギライド特等車
ボンネットバス試乗会

問い合わせ先：筑後川産のあかり打す会 090-4779-4352 (本部)
久留米市 文化財保護課 0942-30-9322 (神保、丸井)

② チラシ配り 11/16 (2W前)

道の駅くるめ 買い物客に **400枚**配布。

チラシ記載の抽選券をPR。

チラシ裏面には筑後川遺産の内容を解説し、

イベント紹介に留まらない啓発活動も行った。



筑後川遺産

ハゼまつり期間中
筑後川遺産
「櫛の道」特別展

久留米市平塚塚中町第221-33
11月29日30日
10:00~16:00
130ボンネットバス巡回

抽選券

特別展(当日)

① 抽選会 11/29~30

抽選券で、ガラポンチャンス。両日で **669人**がガラポンに挑戦。

(チラシ左下の抽選券か、売店買物でもらえる抽選券、いずれか)

※特別展の来場者数は、入口隣の抽選コーナーで算出

抽選数×係数で算出 (例)係数 1.5 を置くと **1003人**来場



② ボンネットバス(道の駅くるめ⇄櫛並木) 11/30 10:00~16:00

・13便 運行し、**305人** が乗車 (6時間30分間隔で運行)

※ 柳坂曾根ハゼまつり本部前では、全員下車

※ バスの中での高校生による筑後川遺産 櫛並木クイズ



←バス側面に屋外広告



道の駅くるめ バスを待つ行列

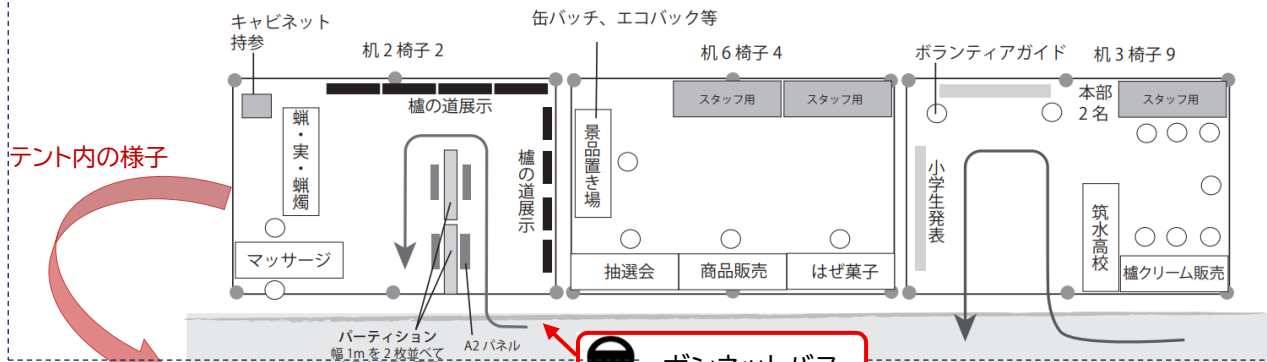
参考) 本部売店での売上 ハゼまつり期間(11/22~28) 18,242 円/日

特別展開催 (11/29~30) 105,400 円/日 (一日あたり **5.8倍**の売上)

2. 展示

特別展では、下記のレイアウトで、筑後川遺産解説、年表、構成遺産マップ、櫨の活用、生産工程、櫨と芸術、柳坂曾根について解説展示を行った。

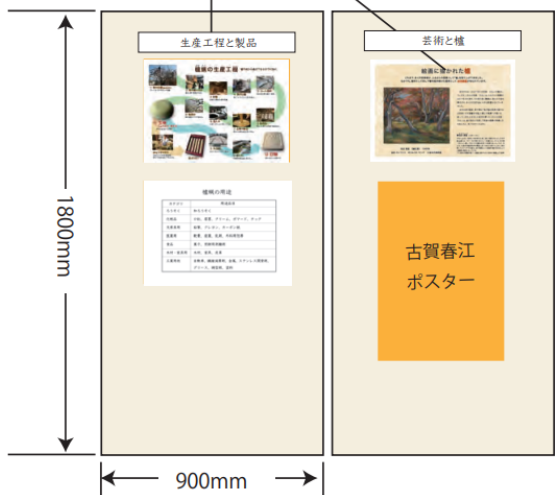
筑後川遺産「櫨の道」特設会場図 11/29 (土) 11/30 (日)



テント内の様子



ボンネットバス
停車位置
(特別展前に停車)



「筑後川遺産」登録記念 魅力伝える特別展

ハゼ並木 住民の誇り



⑤紅葉した柳坂曾根の櫛並木 (2024年撮影、筑後川櫛のあかりを灯す会提供) ⑥実際のコースで、ガイドの予行演習をする久留米筑水高の生徒

筑後川流域に残るハゼの歴史や魅力を紹介する特別展「筑後川遺産櫛の道特別展」が29、30日、久留米市山本町の「柳坂曾根の櫛並木」沿いの特設会場で開かれる。「櫛の道」が今年5月、筑後川に育まれた文化財を歴史的なストーリーで結びつけ保存活用を図る市の「筑後川遺産」に登録されたのを記念し、地元住民らでつくる「筑後川櫛のあかりを灯す会」が初めて企画した。

藩財政支えた歴史も紹介

29、30日「柳坂曾根の櫛並木」沿い会場

江戸時代、久留米藩では、ハゼの美から採れる櫛ろうが和ろうそくなどの原料となり、藩財政を支えた。筑後川遺産「櫛の道」は、ハゼ並木や製ろうで構成する遺産の16の歴史遺産の一つ。構成遺産の一つで県天然記念物の柳坂曾根の櫛並木には、200本以上のハゼが現存し、紅葉が人々を楽しませる。特別展では、時代ごとのハゼの活用法や久留米にハゼ並木が残った理由をひもとく展示が並ぶ。櫛ろうのワックス、ハゼの花のはちみつなど関連商品の販売もある。「灯す会」の矢野真由美会長(60)は「ハゼの魅力や素材としての可能性を再発見してほしい」と話す。30日には、特別展会場と道の駅くるめ(同市善導寺町木塚)を結ぶ無料のボンネットバスを運行する。久留米筑水高の生徒がボランティアでバスガイドを務め、クイズ形式でハゼのストーリーを紹介する。各日午前10時〜午後4時。矢野さん11090(6779) 435(杉野如海)

西日本新聞 筑後版(11月27日発行)

久留米駅デジタルサイネージ

くるめすたいる 11月号

筑後川遺産
筑後川遺産
「櫛の道」特別展
令和7年11月
29日(土)30日(日)
柳坂曾根の櫛並木
ハゼまつり特設会場

櫛を愛する思いがけずに結果

昨年夏、久留米市水原公民館で、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。

筑後川遺産登録第三号「櫛の道」
櫛を守り魅力を伝える柳坂ハゼまつり

「櫛の道」の魅力を伝える柳坂ハゼまつり。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。

毎日新聞 11月28日

精製ハゼろう 肌に優しく

紅葉を愛しハゼの木の皮で、精製したろう。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。

キャンドルマッサージ ハンドクリーム
久留米の祭り会場 あすから特別展

新たな試みに活気高まる

久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。

「櫛の道」の魅力を伝える柳坂ハゼまつり

久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。

祭りがあがるけんこのまらが好き

久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。

筑後川櫛のあかりを灯す会メンバーの皆さん(筑水高 高棟室にて)

久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。久留米市水原公民館の職員は、築後川遺産「櫛の道」の登録記念特別展を開催した。

4.所感

関係者にヒアリングした感想は以下のとおり

- ・ **道の駅くるめ を起点とした周遊効果**

道の駅くるめから、29日は徒歩、30日はバスで来た来場者が多かった。
チラシの抽選券で、来場者に来場ルートを確認できた。
道の駅には、事前PRの際にも協力してもらった。



ウグアイからの観光客

- ・ **バス活用による誘客**

レトロバスの魅力で来場につながった。(車体にも広告)
バスの中での、高校生による筑後川遺産・櫛並木のレクチャーも
効果的で、イベントに活気が添えられた。

- ・ **紅葉にこだわらない観光**

紅葉が落葉していたのにも関わらず、紅葉が見ごろかどうかを気にする客が、例年より少なかった。
紅葉より、櫛の実の豊作について、櫛並木の歴史について語り合うことができた。

- ・ **テントでの特別展**

屋外での展示は、什器の手配、雨風の心配が大きかった。(テントが風で飛んだり、朝露で展示物が濡れたり、想定以上に厳しかった。)文化財保護課のバックアップが無ければ成立しない展示だった。
また、テント内は限られたスペースのため、同時に説明できる人数が限られた。

- ・ **高校生参加の効果**

ニュースリリースの直後から、高校生が取り組む「櫛クリームづくり」が注目を集め、報道につながった。
その取り組みが、筑後川遺産とどう繋がっているのかという説明が大切。

- ・ **ハゼまつりの活性化**

例年以上の集客・売上があり、柳坂曾根の櫛並木保存会は、手ごたえを感じていた。
(ただし来年は、県施設のイベントとの連携、地域の文化祭などとの日程調整を改善したほうが良い)

- ・ **波及効果 (芸術分野)**

特別展のなかで「芸術と櫛」解説をすると、必ずと言っていいほど久留米市美術館「古賀春江展」(同時開催中)に、「これから行きたい」という客が多かった。来場者の属性が合致したからかもしれない。

- ・ **久留米市農政(農業の魅力促進課、みどりの里づくり推進機構)、観光(観光・国際課、KTIE)他の協力**

イベント開催にあたっては、農政部ほかの協力が大きく、機材調達、宣伝に大きな力になった。

- ・ **筑後川遺産の情報発信**

今回は、久留米市の「筑後川遺産」情報発信事業として**共催**があつてこそ、効果的な取り組みができた。
天気も良く、多くの人に知ってもらうことができ、地元、各団体も手ごたえを感じている。
準備の工数に比べ、開催期間が二日間ではもったいない部分は、同じ内容を継続して、
「久留米市世界のつばき館」(12/2~23、草野町)で、巡回展示が実現できて良かったと思う。